

**令和 4 年度主な実施内容及び今後の取組予定
岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会**

岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 青森市 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

○防災拠点機能の強化

令和3年度に引き続き防災活動拠点施設及び防災活動拠点施設のバックアップ施設における備蓄物資の強化拡充を行いました。(約13,000人分⇒20,000人分へ拡充)

○市民等の防災力強化

地域防災力の強化に向け、災害リスクの把握、避難情報の内容及び避難のタイミング等のほか、自主防災組織や町(内)会等による地域コミュニティを活用した防災活動の重要性等、自助・共助による地域防災活動を通じた取組について、市民、自主防災組織、町(内)会、地元企業や団体等に対し防災講話及び訓練支援等を行いました。(令和4年度 55回実施)

【市職員による防災講話】



○自主防災組織の新規結成支援

自主防災組織未結成の町会等を対象に、市町会連合会と連携し、自主防災組織の役割や結成までの具体的手続等について説明会を開催しました。

【令和5年度の主な取組予定】

○防災情報等の多重化の検討(新規)

気象情報や避難情報等の防災情報を迅速かつ確実に住民等に伝達するための手段について、地域特性や情報技術の進展等を踏まえ検討を行い、さらなる情報伝達手段の多重化及び自動化を進めるため、「青森市防災情報伝達手段整備基本計画」を策定します。

○防災拠点機能の強化(継続)

令和4年度に引き続き、防災活動拠点施設及び防災活動拠点施設のバックアップ施設における備蓄物資の強化拡充を行います。(令和5年度は備蓄計画の最終年度)

○市民等の防災力強化(継続)

令和4年度に引き続き、地域防災力の強化に向け、災害リスクの把握、避難情報の内容及び避難のタイミング等のほか、自主防災組織や町(内)会等による地域コミュニティを活用した防災活動の重要性等、自助・共助による地域防災活動を通じた取組について、市民、自主防災組織、町(内)会、地元企業や団体等に対し防災講話及び訓練支援等を行います。

○自主防災組織の新規結成支援(継続)

令和4年度に引き続き、自主防災組織未結成の町会等を対象に、市町会連合会と連携し、自主防災組織の役割や結成までの具体的手続等について説明会を開催します。

岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 弘前市 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

- 弘前市防災マスター育成講座
 - ・防災に関する高い意識と知識を持ち、地域防災の推進者となる「弘前市防災マスター」の育成を目的とした講座を実施した
- 弘前市防災マップを活用した出前講座
 - ・弘前市防災マップを活用した出前講座により、市民に対して防災に関する意識啓発を図った
- 自主防災組織の結成促進
 - ・自主防災組織未結成の町会に対して、組織結成に関するアンケート及び啓蒙活動を行い、地域防災力の向上を図った
- 災害対策本部運営訓練、避難所運営訓練
 - ・市職員を対象とした個別訓練を実施し、防災体制の強化を図った



個別訓練の実施状況

【令和5年度の主な取組み予定】

- 弘前市防災マスター育成講座
 - ・防災に関する高い意識と知識を持ち、地域防災の推進者となる「弘前市防災マスター」の育成を目的とした講座を実施する
- 弘前市防災マップを活用した出前講座
 - ・弘前市防災マップを活用した出前講座により、市民に対して防災に関する意識啓発を図る
- 弘前市総合防災訓練
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた「弘前市総合防災訓練」を4年ぶりに実施し、防災体制の強化を図る
- 排水ポンプシステムの運用
 - ・大雨に伴う河川等の氾濫による浸水被害を軽減するため、排水体制を構築する



排水作業のイメージ

岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 黒石市 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

- 黒石市防災アプリ「CosmoCsat」の導入に伴い、広報掲載や説明会等を含めた周知活動を実施した。

黒石市の防災無線がスマホに届く!

2022年4月からスタート!

緊急の場合はマナーモードにしても最大音量で届きます。

アプリから情報を確認することもできます。

周知行政無線が広く届くようになりました。緊急放送が聞き取れない場合や、市内に住むお客様の身の回りの緊急情報を知りたい場合などに役立ちます。

今すぐアプリをダウンロード!

登録や設定も簡単!

登録方法

①「コスモキャスト」と検索してインストールします。

② 防災無線アプリを入力し、「検索」→「インストール」で完了です。

※アクセス制限の許可は全て「許可」してください。

Apple Store Google Play

黒石市総務課防災管理室 青森県黒石市大字市ノ町11番地1号 TEL:0172-58-2111 (FAX:0172-200)



- 令和4年6月9日、浅瀬石川ダム大規模洪水を想定したダム警戒訓練を岩木川ダム統合管理事務所と合同で実施した。

【令和5年度の主な取組み予定】

- 黒石市防災アプリ「CosmoCsat」の登録拡大を図るため、引き続き周知活動を実施する。

黒石市の防災無線がスマホに届く!

2022年4月からスタート!

緊急の場合はマナーモードにしても最大音量で届きます。

アプリから情報を確認することもできます。

周知行政無線が広く届くようになりました。緊急放送が聞き取れない場合や、市内に住むお客様の身の回りの緊急情報を知りたい場合などに役立ちます。

今すぐアプリをダウンロード!

登録や設定も簡単!

登録方法

①「コスモキャスト」と検索してインストールします。

② 防災無線アプリを入力し、「検索」→「インストール」で完了です。

※アクセス制限の許可は全て「許可」してください。

Apple Store Google Play

黒石市総務課防災管理室 青森県黒石市大字市ノ町11番地1号 TEL:0172-58-2111 (FAX:0172-200)



- 令和5年6月7日、浅瀬石川ダム大規模洪水を想定したダム警戒訓練を岩木川ダム統合管理事務所と合同で実施した。

五所川原市 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

・防災情報の発信

コミュニティラジオ五所川原FMの防災番組において災害に対する平時からの備えや避難情報を得る手段などを紹介した。

・要配慮者利用施設の避難確保計画の実行性を高める研修の実施

要配慮者利用施設の避難確保計画の実行性を高める避難行動につながる情報取得の手段や福祉避難所に関する研修を実施した。

・防災講習会の実施（継続実施）

市民に対して防災知識の普及と意識の向上を図り、防災ハザードマップを利用した防災研修会等を実施した。

【令和5年度の主な取組み予定】

・防災情報の発信（継続）

コミュニティラジオ五所川原FMの防災番組において避難情報を得る手段や備蓄の手法、適切な避難行動の実施方法等を紹介し、防災意識の向上をはかる。

・要配慮者利用施設への研修等の実施（継続）

要配慮者利用施設の避難確保計画の実行性を高める適切な避難行動につながる情報取得の手段や福祉避難所への避難に関する研修会の実施や施設が実施する訓練の支援を実施する。

・防災研修会の実施（継続）

自主防災組織の育成・設立、町内内の防災活動の活性化につながる研修会を実施し、地域の防災力の強化を図る。

・排水ポンプの整備

消防団災害対応能力の向上を図り排水ポンプを整備する。



つがる市 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

- ・ 自主防災組織（水防活動含む）の資機材購入費の一部（上限：新規団体30万円、既設団体10万円）を助成し、地域の自主防災組織の取り組みを強化。
- ・ 要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練を促進。
- ・ 防災教育や防災知識の普及のため出前講座等を活用した講習会を実施。
- ・ **関係機関と連携し、地域住民や水防団員とともに危険個所の確認等を実施。（合同巡視）**
- ・ 最新の岩木川洪水浸水想定区域の更新に伴い、地域防災計画を見直し、防災・減災対策を強化。



【令和5年度の主な取組み予定】

- ・ 自主防災組織（水防活動含む）の資機材購入費の一部（上限：新規団体30万円、既設団体10万円）を助成し、地域の自主防災組織の取り組み強化を継続する。
- ・ 要配慮者利用施設の避難計画の作成及び訓練を促進する。
- ・ 防災教育や防災知識の普及のため出前講座等を活用した講習会を実施する。
- ・ 関係機関と連携し、地域住民や水防団員とともに危険個所の確認等を実施する。（合同巡視）
- ・ SNS等を活用した情報提供体制を強化する。

岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 平川市 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

- 備蓄食糧等の整備・管理
地域防災拠点施設や小中学校、孤立集落等の備蓄食糧を更新。
(更新備蓄：カロリーメイト、飲料水、アルファ化米)
- 平川市防災マップの作成
これまで個別に作成されていた各種ハザードマップの統合に加えて、令和3年度に公表された新たな浸水想定区域を反映させた平川市防災マップを作成・毎戸配布。
- 地域防災の担い手となる消防団加入促進を実施
広報紙に消防団特集ページを掲載するとともに、表紙に現役学生の消防団員を採用し若年層の団員確保を促進。
- 地域防災リーダーの養成事業
地域の防災リーダーを養成するため防災士養成事業を実施。
令和4年度は本事業を活用し、6名の防災士が誕生。
- 浸水想定区域内の要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援
対象となる施設に対し計画策定について支援を実施

地域防災拠点
(ひらかわドリームアリーナ)



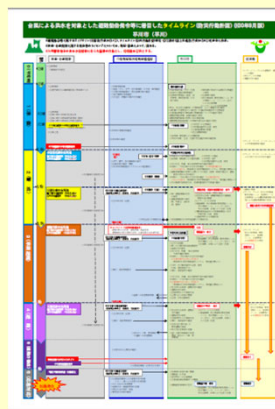
平川市防災マップ



【令和5年度の主な取組み予定】

- 土砂災害や河川氾濫を想定した防災訓練の実施
近年激甚・頻発化する豪雨災害に対応するため、防災関係機関・団体との連携強化並びに職員の防災対応能力の向上を目的とした防災訓練を実施予定。
- 備蓄食糧等の整備・管理
地域防災拠点及び小中学校の備蓄食糧を更新。
不要となる備蓄食糧等は地域の実情に応じて、防災教育や訓練で活用する予定。
- 自主防災組織活動支援補助金制度の創設
自助・共助意識の促進を期待し、自主防災組織が必要となる資機材整備や防災に関する研修会等を支援する補助制度を今年度から開始。
- タイムラインの見直し
避難指示等の発令に着目したタイムラインの見直しを実施予定

タイムライン



防災訓練イメージ



岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 藤崎町 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

- ・ 自主防災組織についての「まちづくり座談会」の開催
- ・ 自主防災組織に関する研修会の開催
- ・ 備蓄品の整備
(段ボールベッド、簡易トイレ等)



段ボールベッド



簡易トイレ

【令和5年度の主な取組み予定】

- ・ 自主防災組織に関する研修会の開催
- ・ 備蓄品の整備
- ・ 町防災訓練の開催



※参考 町防災訓練（令和3年7月11日実施）

岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 板柳町 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

- ・ 令和4年7月20日（水）に行われた水防工法訓練に参加



- ・ 避難勧告が避難指示に1本化されたことに伴う、タイムラインの修正を行った。
- ・ 水防活動時に必要な資機材の点検を継続的に実施
- ・ 災害等活動時における連絡体制の強化をはかるために消防団の訓練の中で、通信機器（携帯型デジタル簡易無線機）の使用訓練を行った。

【令和5年度の主な取組み予定】

- ・ 令和5年7月2日（日）に行われる水防工法訓練に参加



- ・ 水防活動時に必要な資機材の点検・補充を継続的に実施
- ・ 災害等活動時における連絡体制の強化をはかるために通信機器（携帯型デジタル簡易無線機）の訓練を継続的に実施

岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 中泊町 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

●県の事業を活用した

自主防災体験研修会

町内の自主防災会、自治会、消防団、集落支援員、民生委員を対象に主に風水害をテーマに研修会を実施。災害時の地域コミュニティ活動の事例等を学び、自助・共助の大切さを確認していただいた。



●中里中学校での

「中学生の避難所運営体験」

一般社団法人男女共同参画地域みらいねっとが主催し、誰一人取り残さない避難所運営体験を実施した。中学生は将来の地域防災を支える一員であり、将来の地域防災力向上につながることから、モデル事業として実施した。



●自主防災組織の結成に向けた取り組み

当町の自主防災組織カバー率は依然として県内でも下位であり、地域防災力向上が急務である。

町で行っている「兼任集落支援員事業」の集会時などに、各地域で抱える防災の悩みを解決すべく、自主防災組織について説明やアドバイスをを行った。

【令和5年度の主な取組み予定】

●町地域防災計画の修正

令和4年8月の大雨により甚大な被害を受け、改めて防災・減災の重要性を再認識した。

地域防災計画の修正を行い、有事に備えた体制を整え、マニュアル等の整備へつなげていく。

●県の事業を活用した自主防災体験研修会

自主防災組織の役割や必要性の理解を深め、地域防災力の向上につなげるべく、昨年度と同様、自主防災組織などを対象とした研修会を開催。

クイズ形式で参加者が楽しみながら学習し、自主防災組織カバー率の向上を目指すとともに、活動が消極的になっていた組織の活性化につながる内容の研修会となった。

●防災行政無線の機能強化

放送の聞き逃しや、災害時の避難情報等が雨音などで聞こえないといった事態を防ぐため、防災アプリの導入を検討する。

戸別受信機と防災アプリを併用し、情報の伝達手段を複数確保するとともに、外国語対応等により町に居る方が情報を入手できる環境を整える。

岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 鶴田町 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】



- ・洪水ハザードマップ更新
浸水想定区域や避難場所の見直しに伴い、洪水ハザードマップを更新し、町内全戸へ配布した
- ・防災行政無線屋外拡声子局バッテリー交換
3カ年で屋外拡声子局(42局)のバッテリー交換を実施
令和3年度(14局)、令和4年度(14局)、令和5年度(14局)
- ・防災自動起動装置更新
防災自動起動装置の更新を実施した
- ・備蓄用飲料水購入
災害発生時の断水などに備え、飲料水を備蓄しておく必要があるため、備蓄用飲料水の購入を行った
- ・避難所運営研修
地域防災への意識を高めるため、町の自主防災組織を対象とし、避難所運営研修を実施した
- ・小型車両系建設機械の運転業務に係る特別教育
災害発生時に迅速で効果的な災害復興に資するため、消防署、消防団、町職員を対象とし、重機や機材等を活用した人材育成研修を実施した

【令和5年度の主な取組み予定】

- ・避難所への備蓄品の整備
避難所の備蓄品や災害備蓄飲料水の購入
- ・防災士養成研修講座受講補助金の交付
地域防災力を高めることを目的とし、防災士養成研修講座を受講し、防災士の資格を取得しようとする者に、防災士養成研修講座受講補助金を交付する
- ・防災行政無線屋外拡声子局バッテリー交換
3カ年で屋外拡声子局(42局)のバッテリー交換を実施
令和3年度(14局)、令和4年度(14局)、令和5年度(14局)
- ・避難所運営研修
地域防災への意識を高めるため、町民を対象とし、避難所運営研修を実施
- ・小型車両系建設機械等の運転業務に係る特別教育
災害発生時に迅速で効果的な災害復興に資するため、消防署、消防団、町職員を対象とし、重機や機材等を活用した人材育成研修を実施

岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 大鰐町 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

○出水期に備えて、町職員で土のう作成を実施し、役場車庫に備え、いつでも配布できるようにした。



○日頃から町消防団と河川等の警戒巡視及び情報収集等をしており、令和4年8月豪雨の際は、各地区消防団による町内警戒巡視及びその情報収集を実施した。

【令和5年度の主な取組み予定】

○9月末に開催予定の大鰐町総合防災訓練にて、関係機関と連携した水防訓練を実施し、各機関との連携や水防工法の確認を実施する。



○出水期に備えて、町消防団員及び町職員で土のう作成を実施し、水害に備える。

【令和4年度の主な実施内容】

- 備蓄用食料等の購入
- 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成
- 自主防災組織が行う資機材の購入及び防災知識の啓発活動等に要する経費の一部を助成
- 立地適正化計画の作成
- 水防団との重要水防箇所共同点検実施



【令和5年度の主な取組み予定】

- 備蓄用食料等の購入
- 備蓄用水防資材の購入
- 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成
- 自主防災組織が行う資機材の購入及び防災訓練活動等に要する経費の一部を助成
- 大雨災害を想定した住民の避難・誘導訓練実施
- 水防団との重要水防箇所共同点検実施

岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 西目屋村 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

- 水防活動時に必要な、資機材等の点検及び補充を実施
- 水防活動用土のう袋の購入 200～300枚
- 村職員による小型発電機の操作習熟訓練の実施



小型発電機操作習熟訓練の様子

【令和5年度の主な取組み予定】

- 令和5年度西目屋村総合防災訓練の実施
 - ・災害対策本部運営訓練
 - ・避難所開設訓練
 - ・消防団による水防工法訓練の実施 等職員、地域住民、消防組織等との連携を強化し、防災力の向上を図るための総合防災訓練を実施する。



訓練イメージ写真

- ハザードマップを活用した小学校への防災出前講座の実施
- 水防活動時に必要な、資機材等の点検及び補充を実施
- 土のう作成 200～300袋（予定）

青森地方气象台 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

「キキクル（危険度分布）」で「黒」の新設と、「うす紫」と「濃い紫」の統合（令和4年6月30日～）

色	警戒レベル	色	警戒レベル
黒	5相当	濃い紫	-
紫	4相当	うす紫	4相当
赤	3相当	赤	3相当
黄色	2相当	黄色	2相当
白(水色)	-	白(水色)	-

「線状降水帯」による大雨の可能性を半日前からお伝えします。（令和4年6月1日～）

「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たすような線状降水帯による大雨の可能性が、ある程度高いことが予想された場合に、半日程度前から、気象情報において、「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかけます。

この呼びかけは、警戒レベル相当情報を補足する解説情報として発表します。

【令和5年度の主な取組み予定】

「顕著な大雨に関する気象情報」を、より早く、提供します



「顕著な大雨に関する気象情報」について、現在は発表基準を実況で満たしたときに発表しているところ、予測技術を活用し、線状降水帯による大雨の危機感を少しでも早く伝えることを目指す。

加えて、以下のデータも提供

○楕円データ（線状降水帯の雨域）

⇒データ配信（事業者等向け）

○「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たした事例（線状降水帯の事例）

⇒気象庁HPの解説ページに自動掲載

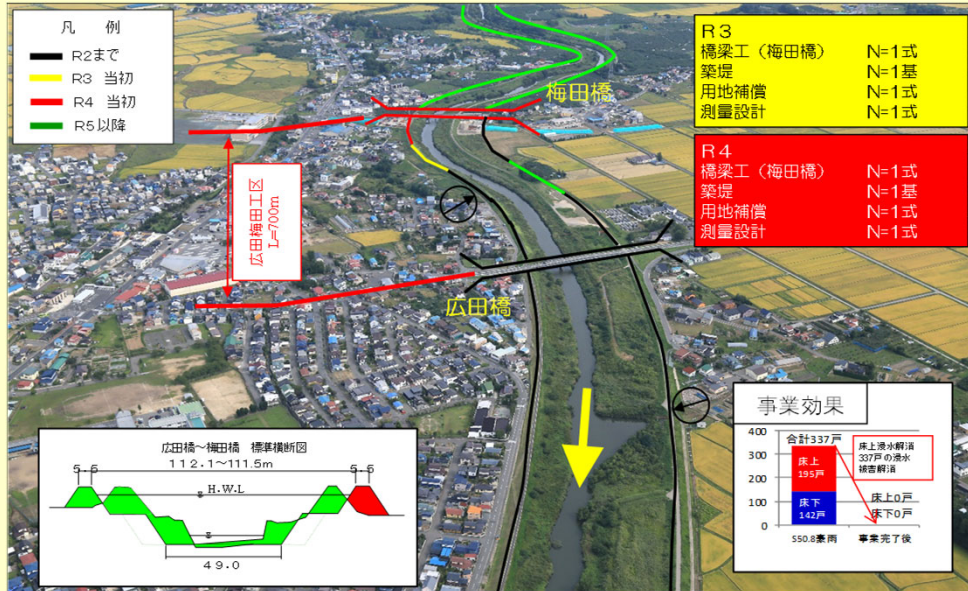
岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会

青森県河川砂防課 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

○治水ハード対策の推進【継続】

- ・平川広域（引座川、大和沢川、腰巻川）、旧十川、十川において広域河川改修事業を継続実施



岩木川水系十川 広域河川改修事業

○重要水防箇所等の合同巡視【継続】

- ・水防団、水防管理団体（市町村）及び河川管理者（県）等による河川の合同巡視を継続実施（相内川、山王川、桂川、小田川）

○防災教育や防災知識の普及【継続】

- ・深浦町立いわさき小学校において、川の防災安全教室を実施
- ・弘前市立石川小学校において、県による出前講座を実施

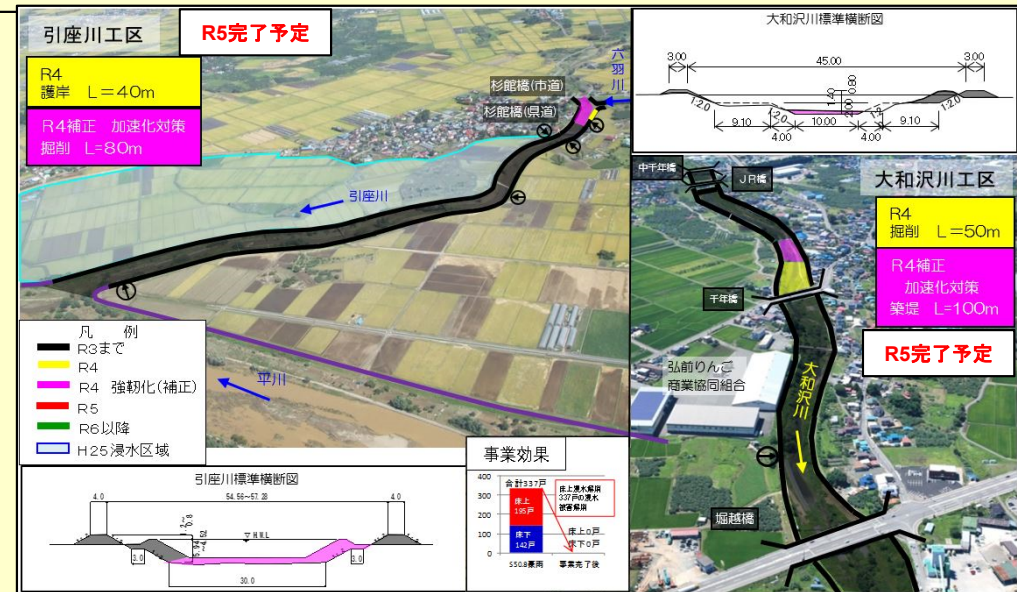


合同巡視状況

【令和5年度の主な取組み予定】

○治水ハード対策の推進【継続】

- ・平川広域（引座川、大和沢川、腰巻川）、旧十川、十川において広域河川改修事業を継続実施



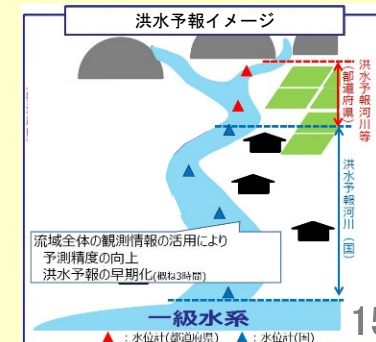
岩木川水系引座川、大和沢川 広域河川改修事業

○重要水防箇所等の合同巡視【継続】

- ・水防団、水防管理団体（市町村）及び河川管理者（県）等による河川の合同巡視を継続実施

○洪水予報の早期化に向けた取組【新規】

- ・平川上流において、国の予測水位情報を活用することで、これまでより概ね3時間早い洪水予報の発表に取り組む



岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会 青森河川国道事務所 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な実施内容】

● 流下能力対策（堤防・河道掘削）整備



● 危機管理水位計・簡易型河川監視カメラの設置

鶴田町からの要望により危機管理水位計と簡易型河川監視カメラを鶴寿橋付近へ設置



● 重要水防箇所合同巡視の実施 ● 流域タイムラインの作成

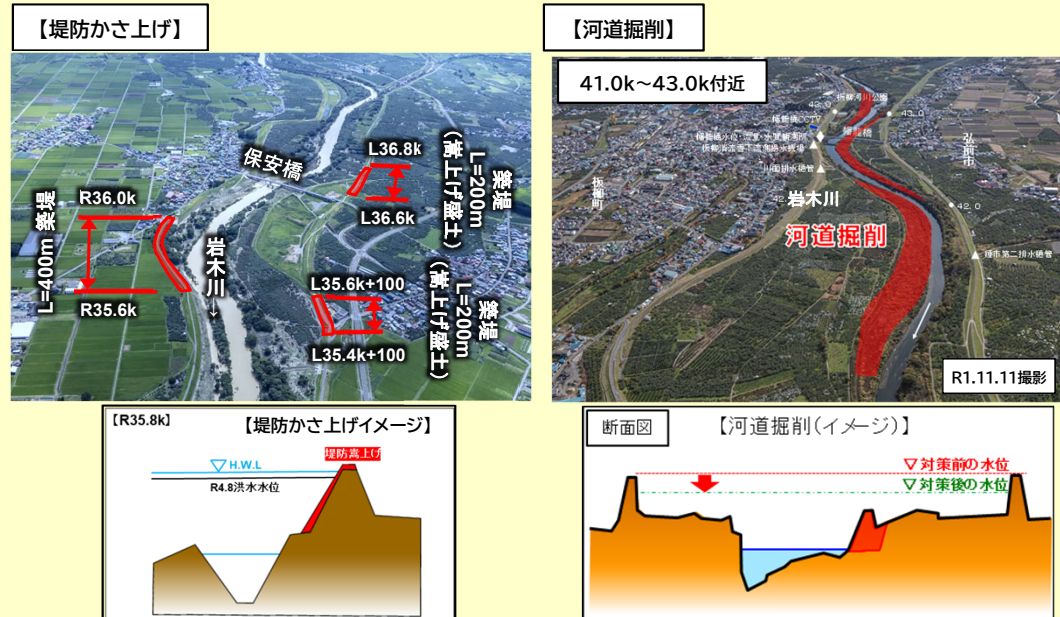
本格的な出水期を前に水防団や防災エキスパート及び行政機関が参加する重要水防箇所の合同巡視を実施

- ・ R4.7.4 五所川原(出)管内
- ・ R4.7.13 藤崎(出)管内

河川・気象の行動のきっかけとなる情報をまとめた流域タイムラインを作成

【令和5年度の主な取組み予定】

● 緊急治水対策プロジェクト（堤防かさ上げ・河道掘削）整備



● 防災教育の支援

地域住民を対象とした流域防災研修会において洪水に関する出前講座を実施
(R5.7.23 弘前会場)



【令和4年度の主な実施内容】

○防災教育や防災知識の普及

- ・人口減少社会に対応できる地域防災体制を構築するため、教育関係者やPTA等の地域住民へ向け、防災教育の重要性等を普及啓発するとともに、昨年度制作した防災教育活動支援ツールの活用方法等を周知

- ・防災全般に関する出前講座を計18回開催（約760人聴講）



- ・浸水想定区域内の自主防災組織未設立町会等を対象に、設立促進及び活動の活発化を重点的に働きかけるための研修会を開催

- ・防災活動をけん引できる指導者の人財を育成し、課題や取組を共有してもらうため、地域防災活動ネットワーク研修会を開催

○市町村が実施する訓練の支援等

- ・地震を想定した災害対策本部図上訓練を実施

【令和5年度の主な取組み予定】

○防災教育や防災知識の普及

- ・昨年度に引き続き、防災教育活動支援ツールの活用方法等を周知するとともに、必要に応じて内容の更新について検討

- ・昨年度に引き続き、出前講座を開催

- ・昨年度に引き続き、研修会を開催
開催予定市町村：弘前市、五所川原市ほか

- ・昨年度に引き続き、地域防災活動ネットワーク研修会を開催
開催予定市町村：青森市、五所川原市ほか

○市町村が実施する訓練の支援等

- ・昨年度に引き続き、災害対策本部図上訓練を実施

- ・市町村のハザードマップ作成作業に対し、必要に応じて助言等を行う。



【令和4年度の主な実施内容】

小・中学生等を対象に、洪水時のダムの役割・効果など防災教育を継続する。



浅瀬石川ダム(R4.6.9)・津軽ダム(R4.6.8) 大規模洪水を想定したダム警報訓練を実施

緊急放流の際に流す案内放送を浅瀬石川ダムは27箇所、津軽ダムは5箇所の警報所の実施

- ①スピーカーによる音声放送
- ②サイレンによる吹鳴
- ③住民参加型避難行動訓練。



警報所のサイレン等の音量測定

西目屋村居森平地区避難訓練

黒石市山形公民館への避難訓練

黒石市温湯地区



【令和5年度の主な取組み予定】

小・中学生等を対象に、洪水時のダムの役割・効果など防災教育を継続する。



浅瀬石川ダム(R5.6.7)・津軽ダム(R5.6.8) 大規模洪水を想定したダム警報訓練を実施

緊急放流の際に流す案内放送を浅瀬石川ダムは27箇所、津軽ダムは5箇所の警報所の実施

- ①スピーカーによる音声放送
- ②サイレンによる吹鳴
- ③住民参加型避難行動訓練
- ④ダムメールの利用促進



岩木川ダムメール



警報所のサイレン等の音量測定

藤川地区避難訓練

黒石市温湯地区

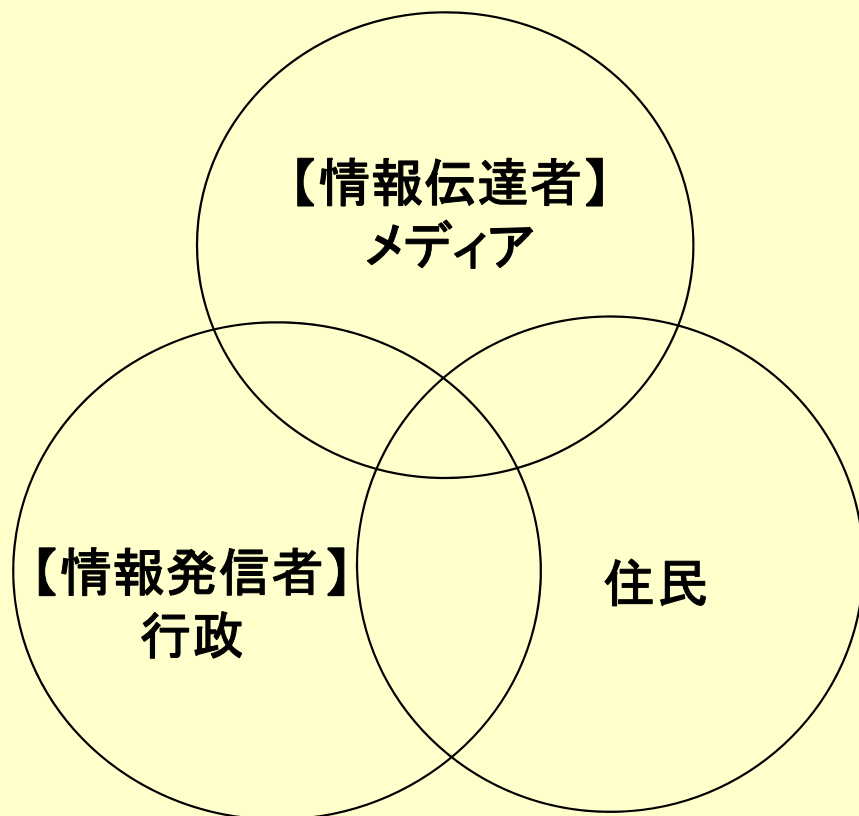
黒石市館川町地区



【令和4年度の主な実施内容】

メディアと防災等に関する意見交換を実施予定

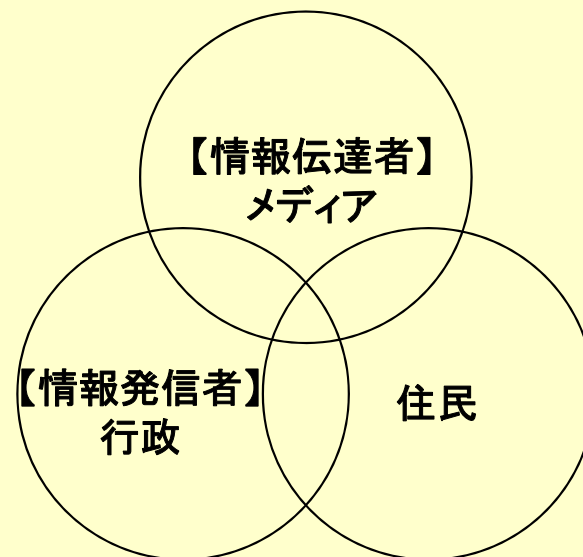
身近な存在であるメディアによる発信にあたり防災に関する知識向上の支援として意見交換を実施予定



【令和5年度の主な取組み予定】

メディアと防災等に関する意見交換を実施予定

身近な存在であるメディアによる発信にあたり防災に関する知識向上の支援として意見交換を実施予定



地域での学習会や津軽ダム資料展示室での見学会時に出前講座を実施予定



岩木川等大規模水害に備えた減災対策協議会

岩木川ダム統合管理事務所 令和4年度主な実施内容及び今後の取組予定

【令和4年度の主な取組み予定】

岩木川ダムメールとは、ダムの放流に関する情報を中心としたメール配信サービスで、事前に登録した利用者にダムからの放流があることを※メールでお知らせするものです。ダム放流する際は、警報設備(スピーカー及びサイレン)で周知していますが、言葉が聞き取れない、ダムから離れているところにおいても知りたいという人は、文字情報として確認することができます。

ダム放流をあなたのスマホにお知らせします

岩木川ダムメール

浅瀬石川ダム 津軽ダム

登録方法

STEP 01 はじめに
※携帯電話番号を利用している場合には「Face ID」や「Touch ID」の登録が必要となります。スマートフォンやPCでも登録可能です。

STEP 02 サイトへアクセス
右側のQRコードを撮影するか、または下のURLを入力してください。
<https://plus.sugumail.com/iwakigawa-dam/home>

STEP 03 仮登録(仮メール送信)
仮登録メールを送信する際に「仮登録メール」の送信先を「仮登録メール」へ入力してください。送信後、仮登録メールを受信し、仮登録メールを受信した際に「仮登録メール」の送信先を「仮登録メール」へ入力してください。

STEP 04 登録完了
仮登録メールを受信したら、仮登録メールを受信した際に「仮登録メール」の送信先を「仮登録メール」へ入力してください。

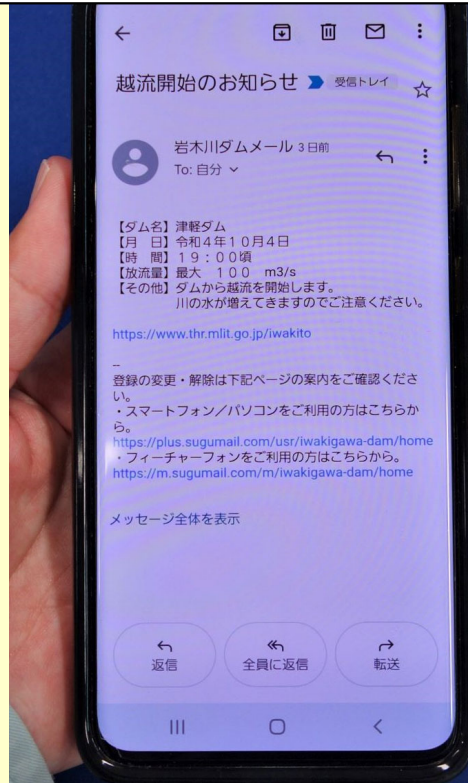
10月1日運用開始
令和4年9月21日より試験運用を開始します

登録無料
登録料は無料です。

両方のダムを登録することも、片方のダムのみを登録することも可能です。
試験配信を兼ねたダム情報もお知らせします。(不定期配信)

お問い合わせ先 国土交通省東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所 TEL.0172-85-3035(内線)

令和4年10月4日17頃に着信したダムメール(19時頃から越流開始)



チラシ配布

弘前市	広報紙掲載
黒石市	チラシ配布
西目屋村	チラシ配布
田舎館村	チラシ配布
藤崎町	チラシ配布
板柳町	広報紙掲載
鶴田町	広報紙掲載

【令和5年度の主な取組み予定】

岩木川ダムメールとは、ダムの放流に関する情報を中心としたメール配信サービスで、事前に登録した利用者にダムからの放流があることを※メールでお知らせするものです。ダム放流する際は、警報設備(スピーカー及びサイレン)で周知していますが、言葉が聞き取れない、ダムから離れているところにおいても知りたいという人は、文字情報として確認することができます。

ダム放流をあなたのスマホにお知らせします

岩木川ダムメール

浅瀬石川ダム 津軽ダム

登録方法

STEP 01 はじめに
※携帯電話番号を利用している場合には「Face ID」や「Touch ID」の登録が必要となります。スマートフォンやPCでも登録可能です。

STEP 02 サイトへアクセス
右側のQRコードを撮影するか、または下のURLを入力してください。
<https://plus.sugumail.com/iwakigawa-dam/home>

STEP 03 仮登録(仮メール送信)
仮登録メールを送信する際に「仮登録メール」の送信先を「仮登録メール」へ入力してください。送信後、仮登録メールを受信し、仮登録メールを受信した際に「仮登録メール」の送信先を「仮登録メール」へ入力してください。

STEP 04 登録完了
仮登録メールを受信したら、仮登録メールを受信した際に「仮登録メール」の送信先を「仮登録メール」へ入力してください。

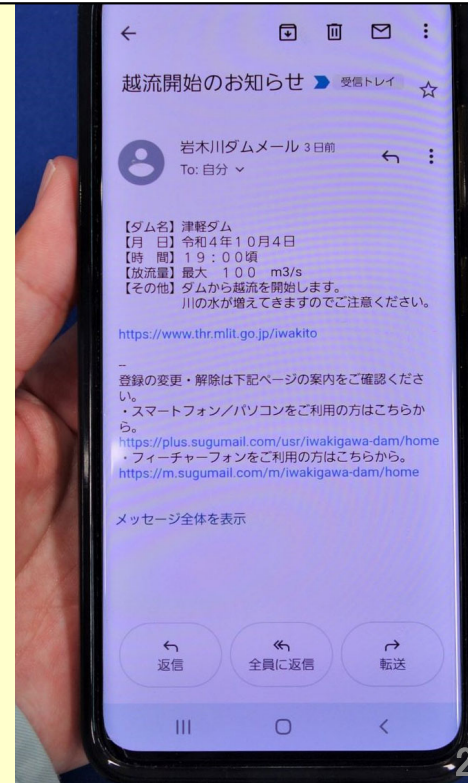
10月1日運用開始
令和4年9月21日より試験運用を開始します

登録無料
登録料は無料です。

両方のダムを登録することも、片方のダムのみを登録することも可能です。
試験配信を兼ねたダム情報もお知らせします。(不定期配信)

お問い合わせ先 国土交通省東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所 TEL.0172-85-3035(内線)

令和4年10月4日17頃に着信したダムメール(19時頃から越流開始)



チラシ配布

弘前市	広報紙掲載
黒石市	チラシ配布
西目屋村	チラシ配布
田舎館村	チラシ配布
藤崎町	チラシ配布
板柳町	広報紙掲載
鶴田町	広報紙掲載

【令和4年度の主な実施内容】

- ・ 農業用ダムの洪水調節機能の強化のため、引き続き関係者間で情報交換を行い、事前放流の操作手順や連絡体制等について、適宜修正を行い関係者へ周知。
- ・ 農業用ダムの洪水調節機能の一層の強化等を図るため、小田川ダムにおける事前放流等の調査を実施。
- ・ 雨水貯留機能の効果が期待できる「田んぼダム」について、令和4年4月に、農林水産省農村振興局が取りまとめた「田んぼダム」の手引きを活用し、県・市町村を始め、土地改良区等に田んぼダムの取組みを情報提供。

「田んぼダム」の手引き



第2章 「田んぼダム」の概要

2.1 「田んぼダム」とは
「田んぼダム」とは、「田んぼダム」を実施する地域やその下流域の洪水被害リスクを低減するための取組です。

図5や写真1のように水田の落水口に流出量を抑制するための堰板や小さな穴の開いた調整板などの器具（以下、流出量調整器具といいます。）を取り付けることで、水田に降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水し、水路や河川の水位の上昇を抑えることで、水路や河川から溢れる水の量や範囲を抑制することができます。

平成14年（2002年）に新潟県の田神林村（村上市）で下流域の集落から上流域の集落に呼びかけることで始まりました。

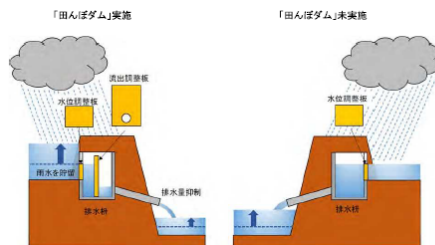


図5 「田んぼダム」を実施している水田の排水イメージ



写真1 「田んぼダム」を実施している水田の排水イメージ

令和4年4月

農林水産省 農村振興局 整備部

【令和5年度の主な取組み予定】

- ・ 事前放流の操作手順や連絡体制等について引き続き関係者間で情報交換を行い、事前放流の操作手順や連絡体制等について、適宜修正を行い関係者へ周知。
- ・ 今年度は、浪岡ダムにおける事前放流等の調査を実施。
- ・ 引き続き、田んぼダム等、農地・農業水利施設を活用した流域の防災・減災の推進（流域治水の取り組み）を情報提供。

https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/kurasi_agwater/ryuuiki_tisui.html

「田んぼダム」の取組により水田からの流出量をどの程度抑制できるのか、水田の水位はどの程度まで上昇し、どの程度の時間で下がるのかという情報を、各地域で簡単に計算できるツールを開発。

https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/kurasi_agwater/attach/other/ryuuiki_tisui-3.xlsm